

## 平成26年度自己評価および学校関係評価結果書

1. 幼稚園の教育目標      その子らしさが光り、最後までやり抜こうとする子  
学校法人 堀之内学園 堀之内幼稚園      園長 牧野千栄
2. 本年度重点目標      自己肯定感を育む保育  
学校法人 堀之内学園 堀之内幼稚園学校関係者評価委員長 河原崎光雄
3. 教職員による評価項目に対する自己評価

評価項目	教職員自己評価	自己評価 結果	学校関係者 評価委員意見	関係者 評価結果
1. 保育の計画性	幼児が主体的に関わりたくなる自ら活動を生み出したり、活動を展開していけるような環境構成について、教師一人ひとりの計画性や工夫、子どもの姿の捉えが大切になる。脈絡もなく「○○するよ」はだめ。前日や前の活動からの連続性を頭に置いておきたい。	C	少子化で大人の目や手が行き届きすぎる中、子ども自身が自ら意欲的に気持ちを動かさざるを得ない場面が少なくなった。せめて園では、子どもが心を動かし活動する経験をできるだけ多くできるようにしてほしい。	C
2. 保育の在り方 幼児への対応	指導の関わりの中の「幼児一人ひとりの良さを認める」について、教師に積極的に関わっている子はもちろん、遠巻きにしている子も名前を呼んだり、小さな認めのサインを送ったりしていくことが大切で、それによってクラス経営に発展性が見られてくる。	B	保護者自身、子どもを評価的にみる傾向が強い気がする。子ども自身も保護者も気がつかないような認め視点をもって、子どもを肯定的に捉えることを家庭と共有してほしい。	B
3. 教師としての資質 能力・良識・適正	打ち合わせや職員会議で積極的な意見が出るような雰囲気になりたい。また、報告者は聞いている側が関心をもって聞けるよう、自分の思いも交えて伝えることを心掛けてみる。	B	平成27年度から始まる子ども子育て新制度について、どれくらいの職員が関心をもっているか職員会でとりあげ、園をあげて研修する必要がある。	C
4. 保護者への対応	教師の子どもへの対応を通して、子どもを肯定的に捉える見方や気持ちを保護者にも間接的に伝える場を大切にする。	B	保護者にも子育ての個性があり、自分なりの方法で一生懸命我が子と向き合っている。まずはその気持ちに共感し、信頼関係を築くことが大切。また、保護者からの批判はチャンスでもあるので、園長・主任と相談の上、前向きに捉えてもらいたい。	B

5. 地域の自然や社会との関わり	最近、聞き物の環境構成が寂しい状態になっている。また、ニワトリの飼育については事務職員に任せっぱなしにせず、教育的な意味を込めて園全体で考えたい。	C	町部地区の高齢者との交流会がとてもよかったという評判を聞いている。地域の中の園の役割としても大切なことだと思うので、続けてほしい。	B
6. 研修と研究	学年研修をやるのはよいが、学年でどのクラスも同じ教材というのはつまらない。教師それぞれがクラスに合わせたまたはオリジナルの教材（遊び）のアイデアを工夫したい。	C	公立幼稚園他、他園の公開保育にも積極的に研修に出かけ、保育の質を高められるようにしてほしい。	B

※自己評価結果の表示方法

- A…十分達成された
- B…達成された
- C…取り組んだが達成が十分ではない
- D…取り組みが不十分であった

※学校関係者評価結果の表示方法

- A…十分に達成されていた
- B…達成されていた
- C…取り組みはみられたが達成が十分ではない
- D…取り組みがみられなかった

#### 4. 次年度以降に取り組む課題（継続）

- ・行事や活動のねらいを押さえる。（その活動を通して、子どもの中に何が育まれてほしいか）
- ・活動の連続性や導入を大切にする。（子どもたちの主体性を育み、見通しを持って生活し遊べるようにする。）
- ・安全危機管理について考える。